

LLL200 世界共通語としての英語

2年 3,4クォーター

担当教員	Albert Lehner, Ph. D.
授業形態	演習
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニング科目
単位数	2
曜日・時限	月曜日・4時限 又は 火曜日・4時限

授業概要

グローバル化が進んだ今日の世界において、英語は、しばしば世界共通語 (*lingua franca*) だと言われる。ところが、英語は発達し勢力をましていくにつれて徐々に進化も遂げていく。現在、世界英語には様々な異種が存在しており、正しさや適切さの基準に普遍性を求めることはできなくなっている。この授業では、英語を世界の表舞台に立たせることとなった主な要因を学ぶ。またこのような英語のグローバル化に伴う問題についても考察を進める。例えば、英語が世界の色々な地方の文化や言語に与える衝撃を分析することは非常に重要である。また様々な世界英語があることを考慮すると、世界言語としての英語 (*English as a world language*) の普及という観点から「ネイティブスピーカー」という語の意味について考えていく必要がある。

到達目標

- (1) 今日の世界で使用されている多様な英語について考察する。
- (2) 世界における英語の優位性と影響力の関連性について分析を行う。
- (3) 英語の「ネイティブスピーカー」とはどういう意味なのか、その主な特徴を定義する。
- (4) 言語と文化の関連性を調べる。
- (5) 日本国内で英語がどのように見られているかについて学ぶ。
- (6) 一人一人が責任を持って行う積極的かつ協働的な学習を経験する。

先修科目

LLL210: 言語学入門 (Introduction to Linguistics)

教科書・参考資料等

教科書

- (1) Crystal, D. (2002). *English as a Global Language (Canto Classics), second edition*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.*変更の可能性あり
- (2) Honna, N. (2008). *English as a Multicultural Language in Asian Contexts: Issues and Ideas*. Tokyo: Kurosio Publishers.

参考書

- (a) Canagarajah, A.S. (1999). *Resisting linguistic imperialism in English teaching*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- (b) Fishman, J.A., Conrad, A.W., & Rubal-Lopez, A. (Eds.). (1996). *Post-imperial English: Status change in former British and American colonies, 1940-1990*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- (c) Kachru, B. (Ed.). (1992). *The other tongue: English across cultures*. Chicago, IL: University of Illinois Press.
- (d) Kachru, B. (2005). *Asian Englishes: Beyond the canon*. Hong Kong: Hong Kong University Press.
- (e) Kachru, B., Kachru, Y., & Sridhar, S.N. (Eds.). (2007). *Language in South Asia*. UK: Cambridge University Press.
- (f) Kachru, B., Kachru, Y., & Nelson, C. (Eds.). (2006). *The handbook of world Englishes*. UK: Blackwell Publishing Limited.
- (g) McKay, S.L. (2002). *Teaching English as an international language*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- (h) Pennycook, A. (1996). *The cultural politics of English as an international language*. London: Longman.

授業の方法

この授業は演習形式で行う。担当教員は課題として出した読み物について、常に小講義を行う。受講生も同様に課題テキストについて積極的に論じ、問いただす準備をして授業に臨むこと。また各受講生は授業中に当日の課題に関して少人数毎に討議する際、ディスカッションを主導するよう求められる。

成績評価

レスポンスペーパー (RP)

学生は、課題の読書テキストから1つを取り上げ(複数も可)、1ページのレスポンスペーパー (RP) を3回提出しなければならない。正式な学術的エッセイでなくてよいが、世界言語としての英語に関するトピックについて受講者が今どう考えているか(何が分からないのかも含まれる)を述べること。

RPを書くためのガイドラインは最初の授業時に配付する。

分析ペーパー (AP)

世界共通語としての英語に関する興味深い問題を選び、それについて5ページの分析ペーパーを書いて、コースの最後に提出する。分析ペーパーの内容は、授業中にディスカッションの対象としたテキストや考え方に対する批評でもよいし、授業中に論じられた問題をまとめて一定の見方を示してもよいし、また授業中に提起された問題をさらに深く掘り下げて論じてもよい。受講生は学期末に自分のペーパーについてプレゼンテーションを行う。

成績

ディスカッション	25%
レスポンスペーパー (RP)	30%
AP プレゼンテーション	15%
分析ペーパー (AP)	30%

授業スケジュール

第1回：授業概要、ライティングについての説明

リーディング (ディスカッション):

Crystal, Chapter 1: "Why a global language?" pp. 1-13

ライティング:

RP: Crystal へのレスポンス、または自分の考えを述べなさい。

第2回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 1, "Why a global language?" pp. 14-28

ライティング

RP: 現在、1つの言語を世界語として使うことは有益であるか問題があるか、どちらだと思いますか。説明しなさい。

第3回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 2: "Why English? The historical context" pp. 29-43

ライティング

RP: ここで、英語の普及におけるどの歴史的側面が最も興味深いと思いますか。説明しなさい。

第4回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 2, "Why English? The historical context" pp. 43-71

ライティング

RP: Kachru の「輪」("circles")をどのように思いますか。

第5回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 3: "Why English? The cultural foundation" pp. 72-85

ライティング

RP: 世界語としての英語 (EWL) の文化的基盤の主要な側面のうち、なるほどと思われるもの、あるいはあなたに関わるものはどれですか。

第6回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 4: "Why English? The cultural legacy" pp. 86-104

ライティング

RP: 植民地化の1効果として、文化はEWLの「持久力」にどのように貢献したのか。Crystalの考えに賛成しますか。

第7回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 4, “Why English? The cultural legacy” pp. 104-122

ライティング

RP: 世界語としての英語に別の言語が取って代わることは可能かどうか説明しなさい。

第8回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 5: “The future of global English” pp. 123-146

ライティング

RP: 1つの言語が世界語であることの議論にアイデンティティはどう関わってくるのか説明しなさい。

第9回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 5, “The future of global English” 147-172

ライティング

RP: 新英語 (new Englishes) の言語的特徴を論じなさい。そのどこが面白く、どこに当惑しますか。説明しなさい。

第10回：リーディング (ディスカッション)

Crystal, Chapter 5, “The future of global English” pp. 172-191

Honna, Chapter 2: “English as an Asian Language: From Observations in Singapore and India” pp. 19-38

ライティング

RP: これまで勉強してきたことに基づくと、シンガポールの英語をどのように特徴づけますか、あるいはどのように評価しますか。シンガポール英語はEWLを考えることにどのような影響がありますか。説明しなさい。

第11回：リーディング (ディスカッション)

Honna, Chapter 3: “English a Multicultural Language and Diversity Management” pp. 51-70

ライティング

RP: 「多様性の扱い(“diversity management”）」とはHonnaなどのような意味だと言っていますか。彼が示唆することをどう思いますか。説明しなさい。

第12回：リーディング (ディスカッション)

Honna, Chapter 5: “English in Japanese: A Case of Language Contact” pp. 91-120

ライティング

AP: 草稿 #1

第13回：リーディング (ディスカッション)

Honna, Chapter 6: “English as a Japanese Language and Linguistic Auditing: From an Environmental Sociolinguistic Point of View” pp. 121-142

ライティング

AP: 最終版

AP: プレゼンテーション第1部

第14回：ライティング

RP: 過去13週間で何を学んだか

AP: プレゼンテーション第2部

第15回：AP: プレゼンテーション第3部

授業評価／教員評価

事前・事後学習

- ・ 予習：参考図書の該当する章を予習してくること (1時間程度)。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること (1時間程度)。